

2009 年アジア太平洋試験所認定協力機構 (APLAC)
理事会、主任評価員研修、及び、相互承認 (MRA) 評議会報告

2009 年5月 NITE 認定センター (IAJapan)

5月17日から22日まで、香港マルコポーロホテルにおいて APLAC (アジア太平洋試験所認定協力機構) の会議が以下の日程で開催されました。

- 17, 18日 APLAC-理事会 (BoM)
- 19, 20日 APLAC主任評価員研修
- 21, 22日 APLAC-相互承認 (MRA) 評議会

当 NITE 認定センターからは2名が参加、その他の日本の認定機関からは JAB から1名、VLAC から2名の参加がありました。

主要な内容は以下の通りです。

● APLAC 理事会

- T.Chan APLAC 議長 (香港) を始め7名の理事 (議長以外はオーストラリア、日本、ニュージーランド、台湾、米国、ベトナム各1名) 全員と H.Liddy APLAC 事務局長が参加。日本からは当センターの瀬田が参加しました。
- 理事会として APLAC 総会に提示する APLAC 戦略案のドラフトを確定しました。これまでに1年半かかり、メンバーからのコメントを募集して原案を修正したもので、認定機関の信頼性向上を目指す組織として、世界的な影響力を強化するという方向で、2年、5年、10年後の目標を提示しています。
- 国際試験所認定協力機構 (ILAC) による APLAC 評価の中間報告がありました。
- 内部監査報告を承認するとともに、理事会によるマネージメントレビューを実施しました。
- 最近の経済活動への影響力増大を反映して、APLAC に寄せられる苦情や相互承認参加拒否に対する異議申し立て等のリスクを考慮し、APLAC として保険に入ることを検討し、ほぼ合意して今年12月の総会に提案することとなりました。

● APLAC 主任評価員研修

4名の講師 (オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、米国各1名) と18名の受講生で実施されました。

研修生は18名 (オーストラリア1、香港3、インド1、インドネシア1、日本3、マレーシア1、ニュージーランド1、シンガポール2、台湾2、タイ1、米国2。) で、いずれも各認定機関で経験を積んだ後、相互承認の評価員として活動してきたメンバーです。2日間にわたり講義、演習、グループ討議等が実施されました。日本からは当センター2名、JAB1名が参加しました。

今回はインド、インドネシア、マレーシアから初めての主任評価員が参加し、途上国メンバーも APLAC を支える構成員として応分の貢献を果たす態勢ができつつあることを示しています。

●APLAC-MRA 評議会

- B.Ashcroft APLAC-MRAC 議長(ニュージーランド)はじめ、オーストラリア、カナダ、中国、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、パキスタン、フィリピン、ロシア、シンガポール、台湾、タイ、米国、ベトナムから 28 認定機関の約 60 名が参加、MRA参加機関では JAS-ANZ(オーストラリアとニュージーランド)、ema(メキシコ)の2機関が不参加でした。日本は前述のように 3 機関から5名が参加しました。
- AAC-Analytica(ロシア)が試験のみで、PNAC(パキスタン)が試験と校正で新規に MRA に署名しました。これで APLAC-MRA 参加機関は 19ヶ国 30 機関となりました。また、PJLA(米国)が参加範囲を試験のみから校正でも参加することが承認されました。この他、NVLAP(米国)と PAO(フィリピン)のMRA参加継続を承認しています。
- ISO15189(臨床検査室の基本的要求事項)改訂にともなう新規格(2007 年版)への移行作業は MRA 参加9機関、NATA(オーストラリア)、CNAS(中国)、HKAS(香港)、NABL(インド)、JAB(日本)、SM(マレーシア)、SAC(シンガポール)、TAF(台湾)、DSMc(タイ)で完了したことが報告され、これらの機関の MRA 参加継続が承認されました。ただし、IANZ(ニュージーランド)は MRA 参加範囲を縮小して臨床検査室を MRA 対象外としました。
- 全相互承認関係文書について APLAC 定款との整合性見直しの結果が報告されました。
- 2010 年から11年にかけての MRA 評価計画が審議され、その中で IAJapan からは3件の評価に対してチームリーダーを派遣することとなりました。その他、評価員補である若手職員等をチームメンバーとして派遣することも調整中です。